

第36期営業の中間ご報告

[平成14年4月1日～平成14年9月30日]



Systemex



シスメックス株式会社

証券コード 6869

第36期上半期の業績と事業活動について ご報告いたします。



第36期上半期業績のご報告

第36期上半期の業績についてお聞かせください。

売上高については、連結ベースで27,413百万円で前年同期比約37%の増収となりました。

地域別に見ますと国内では、国際試薬との完全子会社化にともなう販売部門の統合により試薬製品の販売が伸び、前年同期比49%増と大幅な増収となりました。

米州市場においては、血液凝固測定装置を中心に順調な伸びを見せ、為替換算レートの円安効果もあり、前年同期比28%増となっています。

また、欧州市場では、多項目自動血球分析装置 XE-2100 をはじめとした血液分析装置および試薬、血液凝固測定装置の売上が好調で、前年同期比20%の増

収となりました。

アジア・パシフィック市場では、中国における血液分析装置、血液凝固測定装置、尿検査装置および試薬の売上が増加するとともに、シスメックスデルフィック社の連結子会社化によりIT分野も順調に推移し、前年同期比40%増となりました。

経常利益については、増産効果による原価の低減、販売費及び一般管理費の削減と抑制に努め、さらに国際試薬との統合による効果もあり、2,577百万円(前年同期比65.1%増)の増益となりました。当期利益については、加古川工場の増改築竣工に伴う固定資産の廃棄等による特別損失もありましたが、1,007百万円(前年同期比102.1%増)となりました。

新たなグループパワーで、さらにグローバルなビジネスを展開

医療環境が大きく変化する中、シスメックスの今後の事業展望についてお聞かせください。

近年、わが国を含め北米、欧州などの先進諸国においては、医療費抑制の流れがありますが、中長期的には本格的な高齢化社会の到来や生活習慣病の増加などにより、検査市場はさらに拡大すると考えています。また、検査の迅速化やコストの低減を目的とし、手術室やベッドサイドなど患者のすぐそばで行うPOC(ポイント・オブ・ケア)検査、予防のためのリスク診断や遺伝子検

査技術を用いた確定診断など、新しい検査への需要も高まっています。

また、中国をはじめとするアジア・パシフィック、東欧、中南米などの地域では、経済の発展にともない医療の高度化が進み、今後の成長が期待されます。当社は、各地域のニーズに応じた製品をお届けし、グローバルにビジネス展開していきます。

国際試薬との一体化についてはいかがですか。

本年4月に国際試薬を完全子会社化し、5月に販売・サービス機能を統合したことで、国内トップクラスの販売・サービスネットワークが確立されました。機器・試薬・IT・サービス&サポートを含むトータルソリューションを提供していくとともに、両社の得意分野に特化した試薬生産体制を確立し、さらには試薬開発力の強化により研究開発のスピードアップを推進していきます。また、両社の重複部門の統合によるコスト削減も推進しており、グループ全体としてさらなる効果を出せるよう取り組んでいきます。

高度化する医療ニーズに応じた、新たなビジネスモデルを確立

検査情報システムを核とするトータルソリューションの展開についてお聞かせください。

当社では、医療の効率化と質の向上を目指し、品揃えの充実と検査情報システムを核とした検査室全体に対する総合提案を展開しています。これはITによるネットワーク化に加え、これまで培ってきた検査業務のノウハウを活かして、お客さまに新しい付加価値をお届けするものです。今回、京都大学医学部附属病院検査部

様より、当社の臨床検査情報システム MOLIS を中核とした機器、試薬、サービス&サポートを含むシステム全体を一括受注しました。今後もシスメックスの強みである総合力をフルに発揮し、お客さまに新たな価値を提供していきます。

新規分野への取り組みについてはいかがですか。

新たなコアテクノロジーの創出を目指し研究を進めているライフサイエンスへの取り組みに関しては、本年5月に、がんのリンパ節転移を15分以内に検出できる遺伝子検査技術の開発に成功しました。今後も、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に取り組み、ライフサイエンスに関する研究を積極的に展開していきます。

当社はこれからも、グローバルなビジネスを展開するとともに、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献できる新たな検査・診断技術を確立し、株主や投資家の皆さま方のご期待にお応えできるよう、努力を重ねてまいります。今後ともより一層のご支援をよろしく願いいたします。



代表取締役社長

家次 恒

フレキシブルな生産体制を強化し、生産量の倍増が可能に!

機器生産拠点「加古川工場」が 最先端の工場として リニューアルオープン!!

事業拡大にともなう検体検査機器の需要増に備えて、機器生産拠点、加古川工場の増改築が完成しました。これにより、大型から小型機器まで、様々な機器の需要に即時対応できるフレキシブルな生産体制が強化され、従来の約2倍の生産力を持つ最先端の工場として生まれ変わりました。





加古川工場から、世界125カ国以上の国々へ、高品質で信頼性の高い検体検査機器を供給。

1973年に操業を開始した加古川工場では、シスメックスグループのほぼすべての機器を生産しています。現在世界125カ国以上にお届けしており、年々生産台数が増加しています。また、厚生労働省の医療用具品質管理基準GMPIはもとより、品質の国際規格ISO 9001、医療用具の品質保証規格ISO 13485やEN 46001などの認証を取得しており、徹底した品質管理体制のもと、高品質で信頼性の高い機器の生産に取り組んでいます。一方、環境マネジメントの国際規格であるISO 14001も取得し、環境にやさしい工場を目指しています。

大型から小型機器まで多様なニーズに対応できるフレキシブルな生産体制を強化。

今回の増改築では、生産スペースの拡大に加えて、人と物の流れを最適化することによりさらに生産効率を高めました。また、フレキシブルに生産ラインのレイアウト変更ができるシステムを強化。大型から小型までさまざまな機器の需要に素早く対応できる生産体制を整備しました。これにより従来の約2倍の生産が可能になりました。さらに、高精度が要求される重要ユニット・部品の内製化を進めています。

検体検査分野のリーディングカンパニーとして、グローバルな事業展開を推進。

当社は検体検査分野でグローバルな事業展開を行っており、現在、欧米でのシェアや販売地域の拡大に取り組んでいます。また、中国をはじめとするアジアや中南米での検体検査機器の需要はさらに増加すると予測されます。今回の増改築により、機器の生産体制が強化され、世界中のお客様へ高品質な製品をお届けできる新たな体制が整いました。

これからもシスメックスは、新たな生産体制のもと、全世界に向けて、高品質で信頼性の高い検査機器をお届けします。

国際試薬を完全子会社化し、新シスメックスグループ誕生。

2002年4月1日、株式交換により国際試薬を完全子会社化し、国内外の販売およびサービス機能をシスメックスに統合、5月に新体制でスタートしました。これにより、国内No.1の体制が確立され、今後はシスメックス、国際試薬の一体化により、お客さまにさらに充実したトータルソリューションを提供していきます。

グローバルなIT開発体制の強化を目指し、ベルギーのIT開発拠点シスメックス・モリスの機能を拡充。

医療においても効率化、質の向上にむけたIT化が重要となっており、当社では、日本を含むグローバルなIT開発体制の構築を進めてきました。欧州のIT開発拠点であるベルギーのシスメックス・モリス



シスメックス・モリス

で開発した臨床検査情報システム MOLIS をシスメックスのスタンダードモデルとしてワールドワイドに展開しています。今回、開発・サポート力を強化するため、シスメックス・モリスの機能を増強しました。今後も、検査機器、試薬の品揃えを拡充するとともに、IT商品の強化を図り、検体検査分野でのグローバルなソリューションビジネスを展開していきます。

検体検査分野でのアジアNo.1 総合サプライヤーを目指し、インドネシアに現地法人を設立。

当社はアジアを今後、高成長が期待できる市場と重視し、販売・サービス拠点や試薬生産工場を設置するなど基盤整備を進め、各地域に密着したビジネスを展開してきました。このたびシスメックス・インドネシアを設立し、販売・サービスネットワークを強化しました。当地は人口約2億人のアセアン諸国最大の国であり、これからの経済成長に応じた市場の拡大が期待されます。また、学術セミナーの開催などを通じ、インドネシアにおける医療の普及および高度化をサポートしていきます。

デイドベーリング社との血液凝固関連製品の販売提携契約を更新。

当社は米国のデイドベーリング社と、お互いの血液凝固関連製品に関するグローバルな販売提携契約について、契約期間を2010年12月まで延長しました。1995年の提携開始以降7年間にわたる良好な関係により、両社は今日まで世界中に12000台以上の機器を納入し、凝固市場における世界シェアNo.1の地位を確立しています。今後も両社で協力し、さらなるシェア拡大を目指します。

臨床検査室のトータルソリューションを実現するシステムを京都大学医学部附属病院検査部様より受注。

医療環境の変化が急激に進む中、病院内の検査部門においても、コストの低減だけでなく、医療の質の向上を目指した業務の再構築が求められています。今回、当社の臨床検査におけるトータルソリューションの具体的な納入事例として、京都大学医学部附属病院検査部様において、臨床検査情報システム MOLIS を中核とした機器、試薬、IT、サービス&サポートを含めたシステム全体を一括受注しました。今後も、検査の効率化と患者満足度の向上を含めた検査全体の最適化を提案していきます。

栄研化学(株)の尿自動分析装置、尿検査用試験紙をシスメックスが販売。

当社は、国内の尿検査分野で高い評価のある栄研化学(株)の尿自動分析装置 US-2100R、尿検査試験紙 ウロペーパーⅡ‘栄研’の中国市場における販売契約を7月に締結しました。また、すでに中国市場で実績のある当社製品、尿中有形成成分測定装置 UF-100 UF-50 や情報処理ソフトとのセット販売を提案し、積極的な販売活動

を行います。シスメックスの中国における幅広いネットワークの活用と品揃えの強化で、アジアNo.1の総合サプライヤーを目指します。



ウロペーパーⅡ‘栄研’



US-2100R

臨床検査におけるトータルソリューションを提供する、臨床検査情報システム MOLIS を国内にて発売。

臨床検査分野のトータルソリューションにおける中核システム MOLIS を国内市場にて発売(2002年6月)。

MOLIS はベルギーのIT開発拠点シスメックス・モリスで開発を行い、すでにドイツ、フランスを中心に欧米10カ国、140セット以上が稼働しています。このシステムを当社のスタンダードモデルとして、日本を含む全世界の市場に向けて導入を進めています。

食品中の細菌の検出時間を大幅に短縮する、全自動微生物測定装置 BACTANA。

食品中に含まれる細菌を迅速に検出する全自動微生物測定装置 BACTANA が誕生。この装置に搭載されたフローサイトメトリー技術と当社独自の細胞染色技術により、サンプルをセットすれば微生物の検査をわずか2分で測定。製造・加工から出荷までの時間が短いおそうざいなどの検査に有効です。なおこの装置は、(財)食品産業センターが公募した「平成13年度食品産業再生・新事業創出技術開発事業」に、



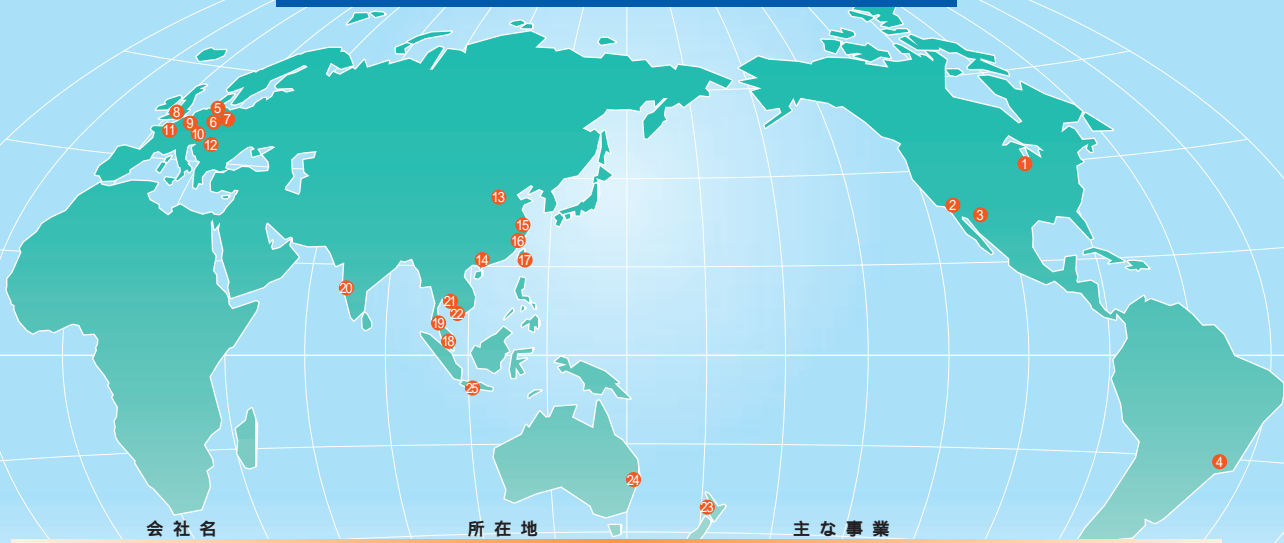
BACTANA

エム・シーシー食品(株)と共同で応募し、助成を受けて開発を実施。また、実用化にあたっては、神戸市産業振興財団が設立した神戸産学官交流会の分科会である「食品工場衛生管理システム研究会」のマーケット調査の成果を反映しました。

臨床検査におけるネットワークサービスの適用範囲を拡大。SNCSの凝固製品への対応を開始。

血球計数装置におけるネットワークサービスとして好評を得ていますSNCS(シスメックス・ネットワーク・コミュニケーション・システム)の凝固製品への適用を開始し、リアルタイムでの精度管理、Webによる情報提供が可能になります。これにより、お客様からの精度管理データ送信後、約10分で解析結果をお客様に提供することが出来ます。また、シスメックスグループでは凝固機器・試薬・精度管理物質(コントロール)の全てを保有しており、精度管理のデータ異常が発生した場合でも原因の究明・改善を迅速かつ的確に行うことができます。今後はコンテンツの充実、対象商品の拡大、海外展開を進め、お客様が安心して使用いただける検査環境づくりを目指します。

連結子会社および関連会社



会社名	所在地	主な事業
国際試薬株式会社	日本	検体検査試薬、検体検査機器の開発、製造及び販売
メディカ株式会社	日本	検体検査機器及び関連資材の製造、販売
トーアメディカル株式会社	日本	検体検査機器及び事務機器等のリース
シスメックス物流株式会社	日本	検体検査機器、検体検査試薬の保管、荷造梱包及び発送
株式会社アル・エー・システムズ*	日本	産業用計測・検査装置の開発、製造及び販売
株式会社日本食品エコロジー研究所*	日本	食品衛生検査
① SYSMEX CORPORATION OF AMERICA	米国	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
② SYSMEX REAGENTS AMERICA, INC.	米国	検体検査試薬の製造及び販売
③ SYSMEX INFOSYSTEMS AMERICA, INC.	米国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
④ SYSMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.	ブラジル	検体検査試薬の製造及び販売
⑤ SYSMEX EUROPE GMBH	ドイツ	検体検査機器の販売及び代理店サポート / 検体検査試薬の製造及び販売
⑥ SYSMEX DEUTSCHLAND GMBH	ドイツ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑦ WELLTEC GMBH	ドイツ	一般個人向け食品健康情報の検査、提供
⑧ SYSMEX UK LIMITED	英国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑨ SYSMEX BELGIUM S.A.	ベルギー	SYSMEX MOLIS S.A.の持株会社
⑩ SYSMEX MOLIS S.A.	ベルギー	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑪ SYSMEX FRANCE S.A.R.L.	フランス	臨床検査情報システム用ソフトウェアの販売 / 検体検査機器、検体検査試薬の代理店サポート
⑫ SYSMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA, S.R.O.	スロバキア	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発・サポート
⑬ 濟南希森美康医用電子有限公司	中国	検体検査試薬の製造及び販売
⑭ 希森美康香港有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑮ 希森美康医用電子(上海)有限公司	中国	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑯ 希森美康電腦技術(上海)有限公司	中国	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発及び販売
⑰ SYSMEX SAN TUNG CO., LTD.	台湾	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑱ SYSMEX SINGAPORE PTE LTD.	シンガポール	検体検査機器、検体検査試薬の販売及び代理店サポート
⑲ SYSMEX (MALAYSIA) SDN BHD	マレーシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売
⑳ SYSMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.	インド	検体検査機器、検体検査試薬の製造及び販売
㉑ SYSMEX (THAILAND) CO., LTD.	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉒ MED-ONE CO., LTD.*	タイ	検体検査機器、検体検査試薬の販売
㉓ SYSMEX DELPHIC LIMITED	ニュージーランド	臨床検査情報システム用ソフトウェアの開発、販売
㉔ WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED	オーストラリア	オーストラリア、ニュージーランドの企業向け法定福利事務支援をWebサイトにより提供
㉕ PT. SYSMEX INDONESIA	インドネシア	検体検査機器、検体検査試薬の販売

*持分法適用会社

損益計算書

科目	(単位:百万円)			
	当中間期 平成14年4月1日から平成14年9月30日まで		前中間期 平成13年4月1日から平成13年9月30日まで	
	連結	単独	連結	単独
売上高	27,413	20,877	20,031	14,853
売上原価	10,703	9,452	8,065	5,926
売上総利益	16,710	11,424	11,965	8,927
販売費及び一般管理費	13,871	9,804	10,392	7,729
営業利益	2,838	1,620	1,573	1,197
営業外収益	211	400	328	515
営業外費用	473	377	341	278
経常利益	2,577	1,643	1,561	1,434
特別利益	49	27		
特別損失	492	253	253	270
税金等調整前中間(当期)純利益	2,134	1,417	1,308	1,163
法人税・住民税及び事業税	1,337	854	1,011	795
法人税等調整額	211	200	201	227
少数株主損益	1		0	
中間(当期)純利益	1,007	763	498	595
前期繰越利益		886		790
中間(当期)末処分利益		1,650		1,386

総資産 (連結・単独)

総資産は、前期末に比べ単独では国際試薬株式会社との株式交換等により約138億円と大幅に増加しましたが、連結では固定資産の廃棄等により約11億円の減少となりました。連結と単独で増減が大きく異なるのは、前述の株式交換の影響等が連結上は相殺されることによりです。

売上(連結)

国内は国際試薬株式会社の完全子会社化の影響もあり試薬製品の販売が大幅に増加し、海外は米州・欧州・中国・アジア・パシフィック各地域において機器・試薬とも好調に推移した結果、連結売上高は274億13百万円(前年同期比36.9%増)となりました。

国内:14,272百万円(前年同期比49.3%増)
海外:13,141百万円(前年同期比25.5%増)

中間純利益 (連結)

加古川工場増改築に伴う固定資産の廃棄損及び国際試薬株式会社の退職給付制度統合による損失もありましたが、10億7百万円(前年同期比102.1%増)となりました。

経常利益(連結)

増産効果や試薬製品の販売増加による原価低減及び販管費の低減により連結経常利益は25億77百万円(前年同期比65.1%増)となり、営業利益、純利益ともども過去最高益を更新いたしました。

貸借対照表(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成14年9月30日現在	前期 平成14年3月31日現在
資産の部		
流動資産	41,506	40,915
固定資産	23,827	25,586
資産合計	65,334	66,501
負債の部		
流動負債	14,652	15,099
固定負債	9,426	9,474
負債合計	24,078	24,574
少数株主持分	63	6,351
資本の部		
資本金		3,384
資本準備金		5,560
連結剰余金		26,233
その他有価証券評価差額金		91
為替換算調整勘定		310
自己株式		5
資本合計		35,576
資本金	5,509	
資本剰余金	8,736	
利益剰余金	26,923	
その他有価証券評価差額金	14	
為替換算調整勘定	79	
自己株式	42	
資本合計	41,192	
負債・少数株主持分・資本合計	65,334	66,501

営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益の増加、売上債権の減少、仕入債務の増加、棚卸資産の増加等により、前中間期に比べ約25億円増加しました。

貸借対照表(単独)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成14年9月30日現在	前期 平成14年3月31日現在
資産の部		
流動資産	33,088	25,408
固定資産	35,425	29,255
資産合計	68,514	54,663
負債の部		
流動負債	16,459	8,850
固定負債	8,367	8,675
負債合計	24,826	17,525
資本の部		
資本金		3,384
法定準備金		5,950
剰余金		27,710
その他有価証券評価差額金		91
自己株式		0
資本合計		37,137
資本金	5,509	
資本剰余金	9,667	
利益剰余金	28,555	
その他有価証券評価差額金	1	
自己株式	42	
資本合計	43,687	
負債及び資本合計	68,514	54,663

キャッシュ・フロー計算書(連結)

科目	(単位:百万円)	
	当中間期 平成14年4月1日から 平成14年9月30日まで	前中間期 平成13年4月1日から 平成13年9月30日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,077	1,578
投資活動によるキャッシュ・フロー	785	501
財務活動によるキャッシュ・フロー	1,084	2,279
現金及び現金同等物に係る換算差額	189	98
現金及び現金同等物の増減額	2,018	3,455
現金及び現金同等物の期首残高	9,181	7,338
現金及び現金同等物の中間期末残高	11,199	10,794

株式の状況

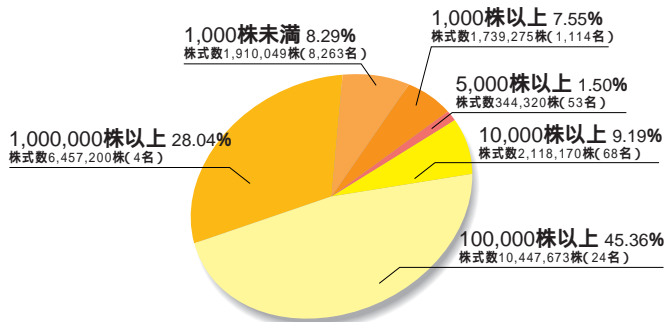
会社が発行する株式の総数

74,836,000株

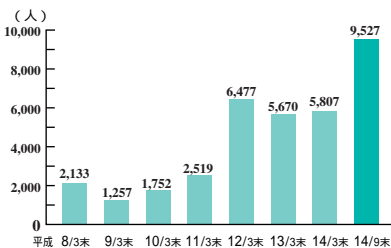
発行済株式総数

23,033,423株

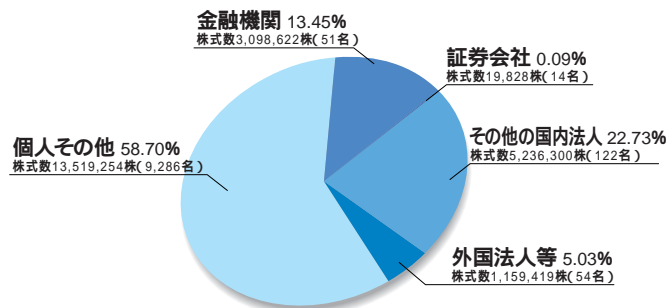
所有数別分布状況



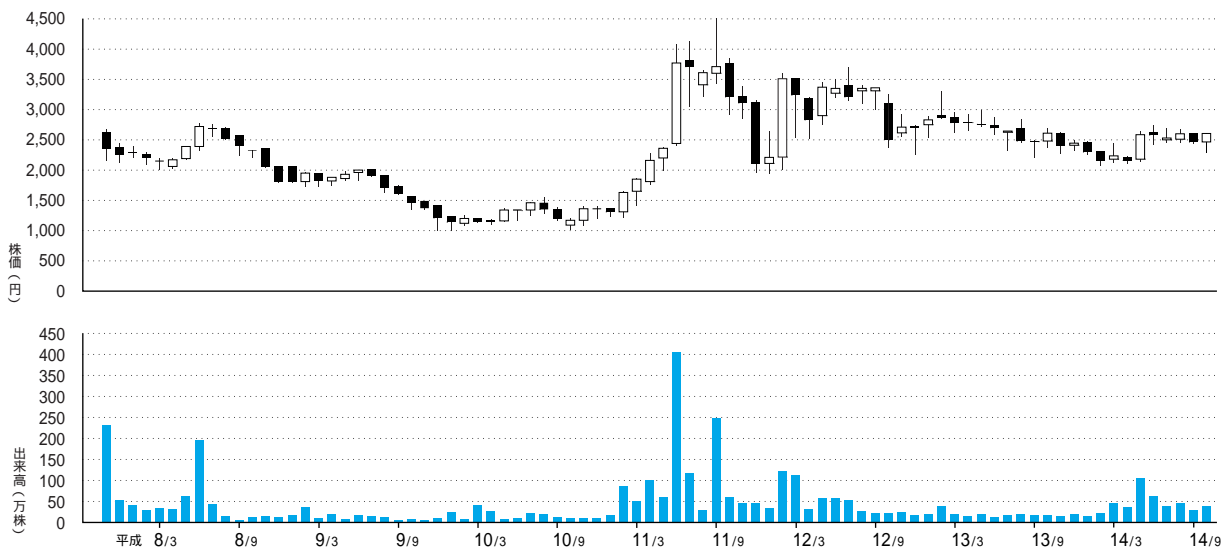
株主数の推移



所有者別分布状況



株価・出来高の推移



平成8/7までは大証株価、翌月以降は東証株価を使用

株主メモ

決算期日	3月31日	株式事務	
定時株主総会	6月	名義書換代理人	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社
基準日		同事務取扱場所	〒100-8212東京都千代田区永田町二丁目11番1号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部
定時株主総会	3月31日	(郵便物送付先、電話照会先)	〒171-8508東京都豊島区西池袋一丁目7番7号 三菱信託銀行株式会社 証券代行部 電話(03)5391-1900(代表)
利益配当金	3月31日	同取次所	三菱信託銀行株式会社 全国各支店
中間配当金	9月30日		
その他必要がある場合は、あらかじめ公告して設定します。			
公告掲載新聞	日本経済新聞	お知らせ	1.住所変更、配当金振込指定・変更、単元未満株式買取請求に必要な各用紙、および株式の相続手続依頼書のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル 0120-86-4490で24時間承っておりますので、ご利用ください。
上場証券取引所	東京証券取引所市場第1部 大阪証券取引所市場第1部		2.配当金を郵便貯金口座へお振込みすることができるようになりました。お手続きには振込指定書のご提出が必要ですので名義書換代理人に指定書用紙をご請求ください。
証券コード	6869		3.上記名義書換代理人住所および同事務取扱場所は、平成15年5月6日に次の場所へ移転いたします。
1単元の株式の数	100株		東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 (なお、名義書換代理人連絡先の住所および電話番号は変更ございません)

会社概要

商号	シスメックス株式会社 SYSTEMEX CORPORATION ('98年10月1日東亜医用電子株式会社から商号変更)	主な関係会社	
設立年月日	昭和43年2月20日	国際試薬株式会社	
資本金	55億921万円	メデイカ株式会社	
従業員数	1,121名 上記の従業員数には関係会社への出向者246名および嘱託、パートタイマー247名は含んでおりません。	トーマメディカル株式会社	
主な事業の内容	臨床検査機器、検査用試薬、粒子分析機器ならびに関連ソフトウェアなどの開発・製造・販売・輸出入	シスメックス物流株式会社	
主な事業所		株式会社アル・エー・システムズ	
本社	〒651-0073神戸市中央区脇浜海岸通1丁目5番1号 TEL.078-265-0500(代) FAX.078-265-0524	株式会社日本食品エコロジエ研究所	
テクノセンター	仙台支店 営業所 北関東支店 札幌、盛岡、長野、新潟、 東京支店 千葉、横浜、静岡、金沢、 名古屋支店 京都、神戸、高松、岡山、 大阪支店 鹿児島 広島支店 福岡支店	SYSTEMEX CORPORATION OF AMERICA(アメリカ)	
加古川工場		SYSTEMEX REAGENTS AMERICA,INC.(アメリカ)	
小野工場		SYSTEMEX INFOSYSTEMS AMERICA,INC.(アメリカ)	
		SYSTEMEX DO BRASIL INDUSTRIA E COMERCIO LTDA.(ブラジル)	
		SYSTEMEX EUROPE GMBH(ドイツ)	
		SYSTEMEX DEUTSCHLAND GMBH(ドイツ)	
		WELLTEC GMBH(ドイツ)	
		SYSTEMEX UK LIMITED(イギリス)	
		SYSTEMEX BELGIUM S.A.(ベルギー)	
		SYSTEMEX MOLIS S.A.(ベルギー)	
		SYSTEMEX FRANCE S.A.R.L.(フランス)	
		SYSTEMEX MOLIS IT SERVICES SLOVAKIA,S.R.O.(スロバキア)	
		濟南希森美康医用电子有限公司(中国)	
		希森美康香港有限公司(中国)	
		希森美康医用電子(上海)有限公司(中国)	
		希森美康電腦技術(上海)有限公司(中国)	
		SYSTEMEX SAN TUNG CO.,LTD.(台湾)	
		SYSTEMEX SINGAPORE PTE LTD.(シンガポール)	
		SYSTEMEX (MALAYSIA) JSDN BHD(マレーシア)	
		SYSTEMEX TRANSASIA BIO-MEDICALS PRIVATE LTD.(インド)	
		SYSTEMEX (THAILAND) CO.,LTD.(タイ)	
		MED-ONE CO.,LTD.(タイ)	
		SYSTEMEX DELPHIC LIMITED(ニュージーランド)	
		WHOOSH TECHNOLOGY PTY LIMITED(オーストラリア)	
		PT. SYMEX INDONESIA(インドネシア)	

役員のご紹介

取締役社長 (代表取締役) ... 冢次 恒	取締役 ... 日置 栄一	取締役 ... 山本 博	
専務取締役 ... 雪本 賢一	取締役 ... 中谷 正	取締役 ... 中島 幸男	常勤監査役 ... 明田 光弘
常務取締役 ... 岡田 徳弘	取締役 ... 林 正好	取締役 ... 岩崎 為雄	常勤監査役 ... 若田 豊太郎
常務取締役 ... 和歌 光雄	取締役 ... 大東 重則	取締役 ... 田村 幸嗣	監査役 ... 石田 義暁

シスメックスの 「ライフサイエンス」 への取り組み

高齢化社会の到来、生活習慣病の増加などともない、医療分野において予防の研究が重要となっています。また、ITやゲノム解析、ナノテクノロジーなどの技術革新が進み、病気の予防や早期発見を目的とする新しい検査の確立が望まれています。今回は、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献するため、シスメックスが取り組んでいるライフサイエンスに関する研究についてご紹介します。

**社会に開かれた研究所を目指し
ライフサイエンスの研究を推進、
新しい検査技術の開発に取り組む中央研究所。**

ゲノム解析が進む現在、ポストゲノムの研究は医療において非常に注目を集めています。従来の検査に加えて、予防のためのリスク診断や確定診断へと検査の領域が広がっています。シスメックス中央研究所では、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を目指し、一企業の研究所としてだけでなく、社会に開かれた研究所を目指して、ライフサイエンスの研究を推進しています。国内外の大学や医療機関、他企業の研究機関と技術交流や共同研究を行い、さらには、医療分野でトップレベルにある方々にさまざまな角度から助言をいただく「アドバイザーボード」も設置しています。社外との積極的な交流を図り、新しい検査技術の確立に取り組んでいます。



シスメックスのライフサイエンス研究

**がんのリンパ節転移を、世界最速で検出する、
遺伝子検査技術の開発に成功。**

中央研究所ではライフサイエンスの研究に取り組んでおり、その一例として、2002年5月、リンパ節へのがん細胞の転移を15分以内に検出することができる、世界最速の遺伝子検査技術の開発に成功しました。前処理から遺伝子の増幅、検出までを一体化するとともに、現在、手術中に病理医が行っているがんのリンパ節転移診断の自動化が可能となります。今後はさらに改良を重ね、全世界に向けた機器と試薬の販売を計画しています。2003年度後半には研究用途での商品化を予定。その後、臨床用途としての発売を予定しています。この新しい検査技術により、手術中に採取したリンパ節全体におけるがんの有無の診断が簡単、迅速、確実に行えるようになり、患者の負担軽減など広くクオリティ・オブ・ライフの向上に貢献できるものと大きな期待が寄せられています。

今後もシスメックスは、ライフサイエンスに関する研究を積極的に推進し、人々のクオリティ・オブ・ライフの向上を目指します。

S C I E N C E

採血せずにヘモグロビン量を測定できる
“アストリム”がもっと身近に!!

マラソンランナー・谷川真理さんが アドバイザースタッフとして活躍!

「世界初! 採血せずにヘモグロビン測定」がキャッチフレーズの“ASTRIM(アストリム)”。

ヘモグロビンは血液中の酸素を運ぶ役割があり、濃度が高いと持久力向上につながるとされ、スポーツ分野で注目を集めています。今回、マラソンランナー、タレントとして活躍中の谷川真理さんとアストリムのアドバイザースタッフ契約を行い、マラソンランナーとしての体調管理のために実際にアストリムをお使いいただき、この製品の有用性をアピールするとともに、今後の開発に向けてご協力いただきます。また、各種イベントへの参加など、積極的な広告宣伝活動、販促活動を展開し、市場の拡大を図ります。



(12月発売予定)



“末梢血管モニタリング装置
ASTRIM(アストリム)”とは...

当社が開発した「近赤外分光画像計測法」により、測定部に指先をセットするだけで採血せずに、血液中のヘモグロビン濃度が測定できる、世界初のモニタリング装置として1999年に商品化。誰でも簡単な操作で、約20秒のスピード測定が可能です。

さらにコンパクトに、使いやすくなった 新モデル“ASTRIM SU”

より使いやすくなった新モデル“ASTRIM SU”が新登場! コンパクト性、汎用性の向上と、コストダウンを実現し、実業団、大学・高校の運動部や女性にとって関心の高い美容やフィットネス関係にも分野を拡大し、より多くの方にご使用いただけるようになります。採血の必要がないことから、今後医療用具としての申請を経て、学校検診などにもご活用いただけるよう進めていきます。